



高橋 豊典

TAKAHASHI Toyonori

オリックス
執行役グループ関西代表



関西独自の 「都市格」形成を

昨年、オリックス・バファローズはリーグ優勝を果たすことができました。多数のご声援ありがとうございました。コロナ禍にもかかわらず、ファンの皆さまが球場に足を運んでくださり、客席がファンの方々に埋まっていく様子に感激しました。優勝後、「実はオリックス・バファローズファンだった」と多くの方々からうれしいお声をいただきましたが、“本当に長い間お待たせしました”と心の中で頭を下げる思いもあり、少々複雑であったりもします。

今年1月には、関西から日本を明るく元気にすることに貢献した人・団体を表彰する「関西元気文化圏賞」の2021年の大賞をいただきました。常に優勝をめざせるチームとなり、オリックス・バファローズが大阪・関西の市民球団として皆さまに認知いただけるようになればと願っています。バスケットボールやサッカーなど、関西に拠点を置くさまざまなスポーツチームや団体の皆さまとスポーツで地域を盛り上げることで、関西経済の発展につながればと願います。

関経連ではベンチャー・エコシステム委員会と都市・観光・文化委員会で副委員長を務めさせていただいていますので、それぞれについて日ごろ考えていることをお話ししたいと思います。

関西においても、ベンチャー企業向けの相談窓口や資金面でのサポート機能が各地に設置され、「点」としてのサポート機能が整い、今後は「点」と「点」を結んでいく段階になったと感じます。それをさらに一歩進め、関西を一つの「面」にしていくべきだと思います。「日本の関西に進出すれば、コラボレーションできる企業が見つかる」「資本を提供してくれる企業がある」と、アジア各国から

関西に対し新たなビジネス拠点としてより一層の認識が生まれ、ビジネス目的で関西を訪れる人も増えるのではないのでしょうか。

その中心となるべき拠点の一つが「うめきた」です。2023年には関西国際空港と直結するJRの新駅が開業し、「うめきた」は大阪の玄関口となります。検討を具体化している「うめきた2期中核機能」についても、ベンチャー企業の支援機能として、大学、大企業、ベンチャー企業、スタートアップ等を結びつける機能を担えればと考えています。

当社は、関西3空港、京セラドーム大阪の運営、うめきた開発事業の推進に取り組んでいます。加えて、夢洲のMICE・IR事業については大阪府・市と基本協定を締結しました。こうした事業を通じ、関西の皆さまと共に、関西全体を「面」としてとらえ、都市の魅力を高めていきたいと思っています。

さらに、関西が持つ歴史・文化といった観光資源に加え、メディカル・ライフサイエンス・ものづくりといった関西の強みである産業、関西が持つベンチャー支援のプラットフォームをアジア各国の方々に活用してもらうことが、関西独自の「都市格」の形成につながると思います。「都市格」の形成という意味では、副委員長を拝命している2つの委員会には近接に結びついた部分があるのではないかと考えています。

今後、アジアの他都市と関西がどのように共創していけるかが「関西ビジョン2030」実現に向けた一つの鍵ではないのでしょうか。当社の創業の地は大阪の道修町、私自身も大学卒業まで大阪市内で育ち、関西への思いはひとしおです。これからも関経連の活動を通じ、関西の発展に向け、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。（談）